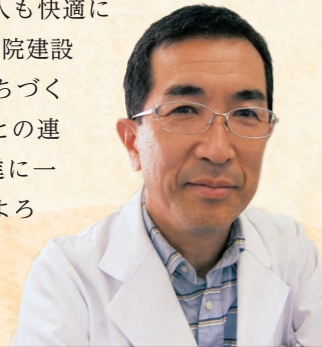


# 2013年 新年のご挨拶

主任副病院長 総合診療科 齊藤 和則

明けましておめでとうございます。最近、病院周辺が綺麗になってきました。南側の二つの工場のうちクボタは、分厚いコンクリートから緑色の薄い壁にして蔓植物を絡ませました。シマノは新工場の壁を明るいトーンにそろえ周辺歩道には街路樹を植えました。歩行者もそこで働く人も快適に感じるでしょう。当院も新病院建設を進める中で、きれいなまちづくりに協力し、近隣医療機関との連携と地域の方々の健康増進に一層の力を注ぎます。今年もよろしくお祈りいたします。



看護部長 森岡 徳子

新年あけまして、おめでとうございます。  
東日本大震災から1年10カ月経ちましたが、被災地の復興は進んでいません。民医連として、福島県の病院への看護師支援を続けています。看護師同士の交流を通して、自分は同じような行動がとれたらどうかと、家に帰りたい、仕事がしたいと訴える仮設住宅にお住いの方や子供たちの声を聞き、看護師の大切な学びの機会にもなっています。また、耳原総合病院では、福島からの避難者の子ども検診を行いました。放射能被害から健康を守る取り組みや原発をなくす運動を続けていきたいと思っております。

今年は、いよいよ、待ちに待った新病院建設がスタートします。また、新たな役割である「地域医療支援病院」として、地域の皆様とご一緒に、安心して住み続けられる街づくりを進めていきたいと思っております。どうぞ、よろしくお祈りいたします。



副病院長 病理診断課 医師 木野 茂生

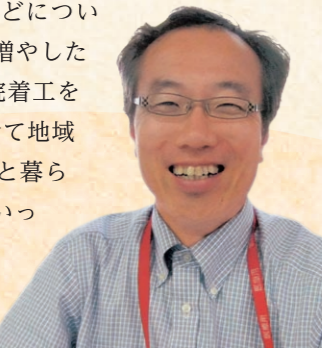
謹んで新年のお慶びを申し上げます。  
旧年中はひとかたならぬご厚情を賜り、厚く御礼申し上げます。  
2012年はヨーロッパの金融不安に端を発した世界的な不景気から、尖閣諸島問題による中国との関係悪化、年末の国会解散まで、いろいろな意味において先の見えない時代の幕開けの年となりました。私たちの耳原総合病院にとっては、昨年末の新病院建設着工によって、新病院での医療展開がますます現実味を持ってきております。2000年のセラチア院内感染事故以来12年が経過する中で、皆様方の厚い御支援により今日を迎えさせて頂いておりますが、消費税増税やT P P 導入による国民皆保険の崩壊など社会の流れを鑑みましても、次世代に向けて、新たな医療展開を構築して行く責務を痛感する次第でございます。  
新病院の建設に当たり、院内の感染対策責任者である私の役目は、病院の構造の決定、医療機器の選定に関し

て医療安全や感染対策を最重点課題として進めていく中心となることであると認識しております。昨年4月の診療報酬改定では、感染対策に必要な費用についても一定の評価がなされ、前進面も見られます。しかし、何よりも重要な点は、直接患者様に接する病院職員の意識改革で、そのためには、職員の学習、教育に力を入れ、職員ひとりひとりが初心に立ち返り、一人の院内感染者もださなよう鋭意努力してまいる所存でございます。何卒、ご理解、ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。



事務長 近藤 聡

旧年中は、まことに世話になりありがとうございました。  
地域医療機関のみなさまのお力添えのもと、堺市医師会よりご推薦をいただき、大阪府より地域医療支援病院の認定をいただきました。その名に恥じぬよう、地域医療機関のみなさまにいつそ身近でお役に立てる病院へと努力をしております。昨年開催いたしました当院主催「第12回地域医療連携をすすめる会」にて、「断らないERを目指して」と題し担当医よりご報告申し上げました。人的体制など救急医療には多くの困難を伴いますが、多くの先生方から期待と激励のお言葉をいただき、あらためて当院の使命を実感いたしました。  
本年はわたくしどももご訪問させていただき、当院での診療や検査の受入れなどについてご意見をいただく機会を増やしたいと考えております。新病院着工をひかえ、職員一同力を合わせて地域住民みなさまがたのいのちと暮らしを守る一助となれるよういっそう奮闘してまいります。



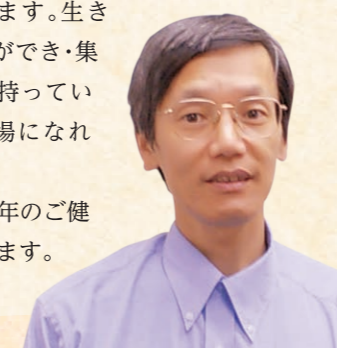
副病院長 救急診療科 医師 田端 志郎

新年明けましておめでとうございます。昨年は当院へのご協力、ご支援を頂きまして誠にありがとうございました。本年もよろしくお願い致します。  
私は集中治療室の責任者をしてしています。毎日のように、重症の患者さんが集中治療室に入って来られます。当院の集中治療室は、集中治療専従の医師を配置し、一貫性のある集中治療を提供できるよう心がけています。しかし重症患者さんの回復は、一面的な評価や介入ではなかなか得られません。集中治療室では、医師だけではなく、看護師、薬剤師、臨床工学技士、理学療法士が、常に緊密な連携を取りながらチーム医療を行い、患者さんのより良い回復を目指して毎日頑張っています。  
当院は「断らない救急」を目指しています。救急患者さんの受け入れを、今後も円滑に行えるように努力するとともに、受診された重症患者さんをきちんと質の高い集中治療で救命できるように努力してまいります。



副病院長 小児科 医師 田中 充

新年明けましておめでとうございます。  
小児科と健診・「健康友の会みみはら」担当の田中充です。先生方のご協力をいただき耳原総合病院もようやく新築の運びとなりました。これからは先生方に利用して頂きやすいように、スタッフのソフト面の改善に努力して行く所存です。予約がしやすく・患者さまの送迎面でも便利な病院になるよう努めさせていただきます。  
昨年从小児科研修に卒業12年の内視鏡専門医が着任しました。大学病院勤務と2年間の臨床研究の勉強をしており、先生方の臨床の場での疑問や経験をスタディにするお手伝い出来る人です。どうぞご利用ください。  
また、新病院ではコミュニティ機能を持つ講堂・レストランも建設します。患者さま以外も来なくなる・人が集まる施設を目指します。生き生きと働き・ボランティアができ・集まって勉強できる、自分の持っている物を皆で分けあえる広場になれるといいな、と考えます。  
それでは先生方の今年一年のご健康とご活躍をお祈りいたします。



副病院長 泌尿器科 医師 田原 秀男

あけましておめでとうございます。  
昨年の耳原総合病院における私個人のキーワードは「情報の共有化」であったように思います。メディカルカンファレンスやカンサー・ボードを開催、参加するなかでの実感です。入院患者様の情報、とりわけ癌患者様の情報について主治医はもちろんのこと、放射線科、病理科、精神科、緩和ケア科などの各科医師、看護師、薬剤師、栄養士、医療ソーシャルワーカーなどの多職種が一堂に会し、精神面、生活状況など共有しより多面的に治療ができるようになりました。患者様への理解もより深まったものと確信をしております。  
年末には堺医師会よりご推薦を得、大阪府より地域医療支援病院の認可を頂きました。開業医の先生方と「患者様」という情報をいかにスムーズに共有させていただくか、いっそう大切にしております。  
今年は上記カンファレンスに紹介元の先生方をお招きし、ご教示いただきたいと思います。

